

海外安全対策情報（ポルトガル・2026年1月～3月）

1 治安情勢及び邦人被害の状況

(1) 治安情報

ア 2025年の犯罪発生状況

2025年の一般犯罪認知件数は365,802件で、前年比3.1%（10,924件）増加しました。凶悪重大犯罪の認知件数は14,149件で、前年比では1.6%（236件）減少しました。凶悪犯罪の全体に占める割合は3.7%です。

2025年中に特に増加した犯罪としては、一般犯罪では、無免許運転が14,301件前年比28.3%（3,151件）増加、飲酒運転が22,806件前年比23.0%（4,258件）増加し、凶悪犯罪では、公務執行妨害が1,812件前年比15.8%（247件）増加しました。

2025年中の凶悪犯罪の中では、去年に引き続き路上強盗4,885件前年比6.8%（354件）減少及びひったくり2,017件前年比7.3%（159件）減少が、最も多くを占めています。

イ 低気圧による災害状況

2026年1月28日から2月15日までの間、ポルトガル政府は低気圧「クリスティン」、「レオナルド」、「マルタ」等がポルトガル本土を通過したことで災害事態宣言を発しました。ポルトガル北部、中部では特に甚大な被害が発生しました。

事件や事故、災害に巻き込まれた場合には、大使館からご連絡差し上げられるよう、在留邦人の皆様には改めて在留届の提出をお願い申し上げます。

外務省オンライン在留届けは、[こちら](#)です。

ウ 教育施設内における犯罪

治安警察庁（PSP）では、教育施設等に対する犯罪防止活動（Programa Escola Segura）を実施しています。2024/2025年度の報告書によると、PSPが所管する地域の3243校の教育施設、生徒約96万人を対象として実施しました。取扱事案の件数は3897件で、前年の4107件より減少しました。うち2791件には事件性があり、その7割が教育施設内で発生しています。暴行傷害事件が1291件で、次いで、脅迫・強要の892件が発生し、武器54丁（銃器2丁、刃物43丁、その他9）が押収されました。PSP作成の報告書は、[こちら](#)です。



エ Lisbon Wave 26

3月24日、Proteção Civil Lisboa（リスボン市民保護局）は、コメルシオ広場において、リスボン市の津波対応訓練を実施しました。リスボン市民保護局は、津波対策として、ベレン地区、アルカンタラ地区、サンタ・マリア・マイオール地区に4機のサイレンを設置し、津波発生時の避難経路、避難場所を設定しています。詳しくは、[リスボン市民保護局ウェブサイト](#)をご覧ください。

また、リスボン市民保護局は、ショートメッセージ（SMS）による安全情報を発信しています。お住まいの方、リスボン滞在中の方は登録をご検討ください。受信を希望する場合は、「AVISOSLX」というテキストを927 944 000にSMSで送信ください。

【津波関連標識】



津波避難経路



津波避難場所



コメルシオ広場 標識

特集：リスボン首都圏警察（COMETLIS）司令官インタビュー

COMETLIS司令官 ルイス・エリアス警視長
1987年警察大学校入校、1992年よりPSP入庁
2024年9月から現職

Q リスボン首都圏警察（COMETLIS）の役割を教えてください。

A 我々は、リスボン、カスカイス、オエイラス、シントラ等の自治体を管轄し、約200万人の定住者と約100万人の非定住者（観光客・通勤者）を擁します。主な活動は防犯、公共治安の維持、犯罪捜査、サッカー試合やデモ行進に関する安全対策です。

Q COMETLIS管轄の治安にはどんな特徴、変化がありますか？

A 今年4月に治安白書が発行されました。リスボン首都圏の犯罪認知件数について、一般犯罪が4.8%増加、重要犯罪が3.4%減少という結果が出ています。一般犯罪の認知件数が増加した背景には警察官の街頭活動が強化され、昨年比で薬物犯罪、交通犯罪の検挙が増加したことに伴う結果であり、ポジティブに受け止めています。

Q COMETLISの優先課題はなんですか？

A 一般犯罪、重要犯罪、薬物犯罪、財産犯罪及びDVの予防と取締りです。また、近年はサイバー犯罪（詐欺、性的恐喝、いじめ）の捜査にも積極的です。

Q 短期滞在者向けに注意点はありますか？

A ポルトガルは欧州内でも治安が良い国ですが、それでもすりには気をつけてください。リュックは前に抱えるように持ち、要すれば開閉部を錠でロックする、人の目に触れる場所に携帯電話を放置しない、市内観光では必要以上に高価な物（腕時計、鞆、高価なスマートフォン）を身につけないよう気をつけてください。また、日本人の被害申告は受けていませんが、外国人観光客に対する



睡眠薬を使用した強姦事案も発生していますので、バーやクラブではご自身の飲み物に異物が混入されることのないように注意してください。

犯罪の多くは周囲に対する小さな注意で予防できるものばかりです。

Q すりに気をつけるべき場所がありますか？

A 歴史地区、メトロ、市電15番と18番での被害が多い傾向にあります。また、すりグループについて、最近の例では、東欧諸国人の窃盗団がリスボンに来て、旅行者をねらって現金や貴重品を盗み、決済用端末を悪用して口座の預金を盗み取る手口を確認しました。ある窃盗団は、犯行後すぐに国外へ逃亡する計画で航空券を用意していたこともありました。

Q 被害に遭ったときにはどうしたらいいでしょうか？

A まず、財布が盗まれた場合はすぐにクレジットカードを停止してください。また、言葉の壁はありますが、クルーズターミナル観光警察署まで被害届を提出に来てください。我々にとって、被害申告も犯罪実態を分析、対策する上で貴重な情報です。被害に遭わないよう予防することが一番ですが、被害に遭ったら被害届の提出を迷わないでください。

Q 日本人の滞在者向けにメッセージをお願いできますか？

A リスボン都市圏は安全であることをお伝えしたいと思います。PSPは犯罪の抑止と安全の実現のため、特に危険が多い地区に展開し市民の安心感を高めています。安全な旅行のためにも一般的な注意事項を守って、ぜひ、リスボン、カスカイス、エストリル、シントラの美しい町並みを訪れてみてください。



(2) その他犯罪発生状況

ア 詐欺事件

治安警察庁（PSP）リスボン交通隊によると、今年1、2月中に発生した運賃の不正徴収や詐欺などで40名の運転手を逮捕しました。

2025年は、リスボンで254名のタクシー運転手が逮捕されました。PSPによれば、リスボン空港では特に米国人、英国人や北欧人が被害にあうケースが多いですが、韓国人、日本人に対する詐欺行為についての情報提供も受けております。

主な手口としては、「空港から市内まで一律料金で50ユーロ」などの虚偽の請求をしたり、カード支払の際に実際より高額な料金（1000ユーロを請求された事例もあり）を決済端末に入力して被害者に領収書を渡さないまま騙すなどの手口が確認されています。また、タクシーメーターに加速装置を付けて、不正に値段をつり上げたり、メーターを隠して、「空港特別料金」、「日曜料金」、「追加料金」などを理由に高額請求する例がある。通常、空港からリスボン市内までは概ね10ユーロ程度です。

逮捕年	リスボン首都圏逮捕件数	全国逮捕件数
2022年	90	126
2023年	102	163
2024年	16	76
2025年	254	297

イ 電動キックボードによる事故統計

全国の2019年から2025年の間における電動キックボードの事故は4610件、死者数15名、負傷者3615名、重傷者176名でした。2023年は事故1095件、死者8名。2024年は事故1369件、死者3名。2025年は事故989件、死者4名でした。事故の大半が、25km/時の制限速度を遵守しない速度超過によるもので、増加の背景には、電動キックボードの使用に定める規則がないこと、専用道路の未整備による歩道などの不適切な場所での走行、標識の無視、ヘルメットの未着用があります。特にポルトやリスボンの事故の発生が目立っています。

ウ 交通事故を装った詐欺の増加について

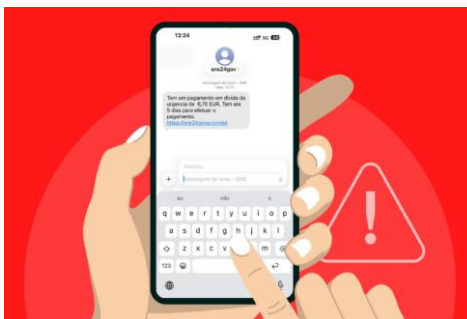
3月、PSPは、2021年から2025年の交通事故を装いその場で現金等をだまし取る詐欺犯罪の増加を警告しました。PSPが直近の5年間に受け付けた被害届は853件で、年々増加しており、2025年は前年と比較して78%増加し、399件の発生を記録しました。

犯人らはとくに高齢者を標的にしており、被害者の年齢は70歳代が40%、80歳代が39%など。商業施設の駐車場で車両を操作している際の車両同士の接触事故、対人の接触事故を装い、車両や所持品等が壊されたと訴え心理的、身体的に圧力をかけて現金をだまし取る手口です。自動決済端末（POS）を所持している犯罪グループも存在するそうです。犯行発生は日中の10時～16時が多く、発生場所は監視カメラのない駐車場や道路で行われることが多いです。事件に巻き込まれた場合は、その場ですぐに警察に連絡してください。

エ サイバーセキュリティについて

① ポルトガル政府は国民保健サービス（SNS）を装った不正な通信に警戒するよう呼びかけています。メッセージはSMSで送信され、個人情報や銀行情報、または架空の健康サービス料や手数料の支払い（MBウェイによる支払など）を要求する、「スミッシング」詐欺と言われる手口になります。以下のとおり注意喚起しています。

- ・ **支払いを求めるメッセージは無視してください**
- ・ **個人情報や銀行情報は提供しないでください**
- ・ **不審な通信は関係当局に通報してください**
- ・ **相談先（SNS24） [8082424244/csirt@spms.min-saude.pt](https://8082424244.csirt@spms.min-saude.pt)**



② 3月、治安情報局は、WhatsApp と Signal を使ったサイバースパイ活動の手口について警告を発しました。治安情報局は、WhatsApp や Signal 自体に脆弱性があることを意味するものではありませんが、これら2つのアプリが安全な通信手段として普及していると

て油断している利用者の隙を突いていると説明しています。目的は「WhatsApp や Signal の個人アカウントを乗っ取り、機密情報を抜き取ること」です。

偽のテクニカルサポートにより認証情報やアカウントのアクセスコードの共有を要求する、悪意のあるリンクに誘導しアカウントや通信内容を盗むフィッシング、信頼できる連絡先（同僚、関係者、同業者など）になりすまし機密情報を引き出す（クイッシング）手口があります。対策は以下のとおりです。

- ・新しい連絡先の真偽を、他の手段で必ず確認すること
- ・アカウントの認証情報や確認コードは絶対に共有しないこと
- ・QRコードを読み取るのは必要と判断した場合に限定すること
- ・許可なくグループに追加されることを防ぐこと
- ・セキュリティとプライバシー設定を最大限強化すること

(3) 邦人被害

2026年1月から3月の間、大使館に届出があった邦人の犯罪被害件数は4件で、置引き及びすりの被害でした。今期は、カフェやレストランで鞆を背もたれや椅子に置いている隙に通行人に盗まれる手口が目立ちました。貴重品は常に目の届くところに保管してください。

リスボン市内、ロシオ広場、サンタ・アポローニア駅周辺、アルファマ地区、バイホ・アルト地区、ベレン地区及びポルト市内において発生しており、バックパックやショルダーバッグのファスナーを開けられ、貴重品を抜き取られています。人の多い場所では、歩いていても鞆は正面で持つなど盗難対策をしましょう。ポルトガルは、比較的治安の良い国ですが、注意を怠らないよう気をつけてください。

路上や観光スポットはもちろん、レストランやホテルのロビーにも窃盗グループが常駐し、犯行の機会を窺っています。食事の際、路上演奏を聴く際、写真を撮影する際、チケットを購入する際などには、手荷物を常に視界に入れて、被害に遭わないよう気をつけて下さい。

ア 1月 置引き1件

イ 2月 すり1件、置引き1件

ウ 3月 置引き1件

※ ご旅行に際しては、在ポルトガル大使館作成「安全の手引き」をご覧ください、外務省海外安全情報配信サービス「たびレジ」への登録もお願いします。

2 報道された主な凶悪犯罪

(1) 殺人

- ・ 3月、シントラ市ケルース地区フランシスコ・フランコ通りで、駐車中の乗用車の車内にいた32歳の男性が、何者かに散弾銃で撃たれて死亡しました。PJは、薬物取引のトラブルによる報復措置の可能性があるとみています。
- ・ 3月27日、アルマダ市カシリヤスの市営コートで行われたサッカーの試合中、16歳の少年が、口論から発展して22歳男性をなたで襲い死亡させました。

(2) 強盗

- ・カスカイス市内を中心にリスボン圏内で、未成年ばかりを狙って暴行を加えるなどしていた15歳から23歳までの5人組が、12月末にPSPに逮捕されました。5人組は、「今の時間を教えてほしい」と被害者に近づき、暴行を加えて銀行カードを奪い、暗証番号を無理矢理聞き出していたものです。
- ・2月5日午後9時頃、リスボン市内のリスボン国際空港到着ロビーにある店舗に刃物を持ったオランダ国籍の30歳の男性が押し入り、従業員を脅してレジの現金を渡すよう強要しました。居合わせた利用客らが男を取り押さえ、駆けつけた警察官に引き渡しました。
- ・3月7日及び同14日、リスボン市ルミアール地区において、学生を狙い、ナイフで脅して所持金を奪い、さらにATMで現金を引き出させて奪ったとして、36歳の男性が強盗容疑で逮捕されました。
- ・3月18日午前11時頃、モイタ市において、被害者が車を運転していたところ、ヘルメットを被った5人組の犯行グループが横付けし、銃器と刃物で脅しました。被害者が抵抗した際、銃撃により腹部、刃物により腕を負傷し、車の鍵、携帯電話、財布、現金を奪われました。
- ・3月18日、ポルト市ラマルデ駅において、46歳の外国人男性が70代女性から金品を盗もうと催涙ガスを使用したところ、6人が負傷し、3人が入院しました。
- ・3月19日、リスボン市ガレ・ド・オリエンテにおいて、携帯電話を盗まれそうになり抵抗した女性が、胸部を刺されました。

(3) すり

- ・3月9日午後7時頃、リスボン市バイシャ地区においてハイパーマーケットに入店した被害者の上着のポケットから携帯電話を盗み、同日、PSPに逮捕されました。
- ・3月20日、リスボン市アルファマ地区において、PSPは37歳から40歳の男女3人をすりの現行犯人として逮捕しました。被害者は、観光客で、リュックから50ユーロ、39ドルの現金入りの財布をすられたもので、同3人組は2024年から合計6回逮捕されていました。
- ・3月25日、リスボン市ベレン地区において、20歳と25歳の女性2人組が複数回すりを行い、総額470ユーロを盗んだとしてPSPに逮捕されました。

(4) その他

- ・1月24日未明、リスボン市内カルロス・マルデル通り（アラメダ駅付近）にあるホステルに、男女2人組が侵入し、客室を物色していたところ、宿泊客が気づき、PSPに通報しました。通報を受けて駆け付けたPSPが、別の客室にいた犯人を逮捕しました。犯人らは以前にも同ホステルに侵入して鍵の束を盗んでいましたが、経営者が鍵を取り換えていたため、使えなかったとみられます。
- ・2月4日夜、ロウレ市エステヴァル地区の路上に駐車してあった乗用車に向かって、何者かが発砲して逃走しました。乗用車の所有者は裁判官で、親族の家を訪問していたということです。

- ・ 2月19日午後8時頃、リスボン市内にあるスポルティングのスタジアムで、ベンフィカとスポルティングのフットサルの試合前に、両チームのサポーターらが乱闘となり、124名が逮捕されました。
- ・ 2月25日未明、リスボン市内マルティン・モニス地区ベンフォルモーゾ通りで、乗用車から拳銃が発砲され、3名が重軽傷を負いました。2名は食料品の配達員のバングラデシュ国籍の男性で、たまたま居合わせただけだとみられています。勢力争いをしている薬物密売組織間の抗争の激化が原因とみられています。
- ・ 3月5日、PSPは、カスカイス市サンドミンゴス・デ・ラナ通りにおいて、車両に乗った薬物密売人の48歳男性を現行犯逮捕しました。
- ・ 3月上旬、リスボン市マルヴィラ地区の学校において、12歳の少年が長包丁をリュックに隠して学校に持ち込み、警察に拘束されました。学校内のいじめが原因で、自衛のために持ち込んだと話しているとのこと。
- ・ 3月4日深夜、リスボン市バイシャ地区において、4人の少女に対してアルコール飲料と薬物を飲ませた上で強制性交した容疑で、PJは19歳、21歳、32歳の男性を逮捕しました。
- ・ 3月下旬、セイシャル市において、PSPは、車内にヘロイン、クラック及び大麻計640回分と銃火器2丁を所持していたとして、23歳男性を逮捕しました。
- ・ 3月下旬、シントラ市において、PSPは、車両を盗もうとした20歳と21歳の男性2人を逮捕しました。

3 テロ・爆弾事件発生状況

3月11日午後零時半頃、サンタ・マリア・ダ・フェイラ市内ミレニウムBCP銀行の支店にニット帽と眼鏡をかけた男が入店し、「爆発物が入っている」と言い残して、リュックサックを店に置いて立ち去る事件が発生しました。現場は、共和国警備庁によって避難措置がとられ、その場で爆発物の処理がされました。

4 誘拐事件発生状況

外国人を標的とした政治目的、身代金目的等誘拐事件の把握はありません。

5 対日感情

良好です。

6 日本企業の安全に関する諸問題

外国籍（日本資本を含む）企業が、犯罪に巻き込まれた情報の把握はありません。